

One Bite of Fair Trade with YPU TFT Project

・ 構成員

代表者	： 高橋知里	(国際文化 学科 2 年)		
会計	： 杉島海帆	(国際文化 学科 2 年)		
指導教員	： 進藤優子	(国際文化 学科)		
メンバー	： 五十嵐まい	(国際文化 学科 2 年)	加勢佳奈	(看護栄養 学科 2 年)
	田中萌子	(国際文化 学科 2 年)	大竹研一	(国際文化 学科 2 年)
	橋本育美	(国際文化 学科 2 年)	田中美里	(国際文化 学科 2 年)
	宮崎彩香	(国際文化 学科 2 年)	目賀千里	(国際文化 学科 2 年)
	宮崎涼	(文化創造 学科 1 年)	安本愛沙弓	(文化創造 学科 2 年)
	芳田藍里	(国際文化 学科 1 年)	北中茉莉絵	(国際文化 学科 1 年)
	好川聖良	(国際文化 学科 1 年)	吉田菜奈美	(国際文化 学科 1 年)

・ プロジェクトの目的

「もっと多くの人を救いたい」・「FT*や TFT**といった国際協力を身近に感じてほしい」という願いから団体結成に至りました。FT 商品を原材料の一部に使用した TFT メニューを開発し、それを食べてもらうことで 20 円が寄付されるという、国際協力×国際協力の新しい支援の形を提案することがプロジェクトの目的です。特に、以下の 6 つの点を目標に活動しました。

- ① FT や TFT を通し「食べる・買う」ことに対する意識改革
- ② 「気軽に参加できる国際協力」への気づき・参加の促し
- ③ FT 商品を使用した TFT メニュー開発および他の TFT 団体への提案と承認
- ④ FT×TFT メニューの試食・販売によるリピーターの創出
- ⑤ メディア広報による賛同者の増加
- ⑥ 山口県立大学のアピール

*FT : Fair Trade の略。発展途上国で作られた製品を適正な値段で購入し、生産者の自立を促す貿易の仕組み。

**TFT : Table For Two の略。: TFT の提供するヘルシーメニューを先進国の人が食べることにより、アフリカの子供達に給食 1 食分 (20 円) が贈られるという国際協力を行う団体。本部は東京にある。

・ 活動内容

1. メニュー開発

① FT 商品を材料の一部に使用すること②ヘルシーなメニュー、つまり TFT メニューであること③メニュー料金から 20 円を寄付しても提供側に負担がかからない価格であることの 3 つの条件をもとに、豆腐ドーナツや夏野菜カレーなど計 9 つのメニューを開発しました。多くの方が日常生活において私たちの取り組みを実践できるよう、Facebook ページにはレシピも掲載しています。



FT×TFT レシピ

2. 「次世代」に向けての活動

- ① 高校生向け講座&試食提供 (8月8日)
- ② 小学生向け授業 (8月22日)

食糧問題の解決策の方法として FT および TFT、そしてそれらをコラボレーションした私たちの活動を紹介し、多くの子どもたちから賛同を得ました。



小学生向け授業の様子

3. 「同世代」に向けての活動

学内においては、FT商品を原材料の一部に使用したTFTメニューの試飲・試食会、FTおよびTFTに関するセミナーを計8回行いました。セミナーでは毎回FT商品またはFT×TFTメニューを提供し、それらの良さを知っていただきました。学外では、私たちのコラボレーション活動を広めるため、TFT本部などが主催するTFTのイベントに参加しました。2012年12月に行われたTFT大学連合総会では、約170名の参加者に対し、チアシ配りとFT×TFTメニューの試食品の提供を行いました。



TFT 大学連合総会の様子

4. 「地域」との活動

より幅広い層へ活動を広めるため、地域の方と共同して以下のイベントを行いました。

- ① 華月祭出店(11月4日)「東チモールの会」との共同出店
- ② バングラデシュ・カフェ(11月10日)「デッシュの会」と共同開催

華月祭ではFT×TFTの豆乳ココアを販売しました。山口県のフェアトレード団体の方と華月祭への共同出店をしました。また、バングラデシュで医療活動をされたJOCSの宮川眞一氏の講演にあわせ、バングラデシュ・カフェを共催し、FT×TFTのチャイを提供し、私たちの活動を報告しました。



バングラデシュ・カフェで私たちの活動を報告している様子

5. 「メディア」への発信

FTおよびTFT、そしてそれらをコラボレーションすることに至った理由や私たちの活動内容を以下で取り上げられました。

- ① 国際文化学部情報誌「まるかるっちゃ」掲載(10月3日)
- ② 下関市民情報誌「海」掲載(10月21日・11月23日)
- ③ C-able 山口ケーブルテレビジョン

「かなとまきの部屋」出演(12月3日)

これらを通して多くの方に私たちの活動を伝えることができました。

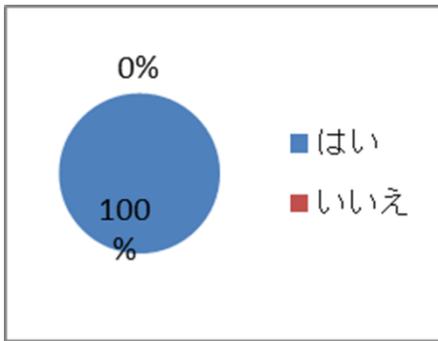


「かなとまきの部屋」出演の様子

6. インタビュー・アンケート

学外のTFTイベントでのインタビュー結果では、「食べるという支援の形が新しいと思った。」(他大学1/女) 学内のFTおよびTFTに関するセミナーでのアンケートでは「FT商品を買いたい。売っているお店を教えてください。」(国1/女) 「価格は高かったが、華月祭でFTのチョコレートを購入した。」(文1/女) といった結果が得られました。

また、学内のFTおよびTFTに関するセミナーでのアンケートで、「あなたの生活にFTを取り入れたいですか。」という問いに対して、23名中23名から「はい」という回答を得ました



以上のことから、「食べる」ことや「買う」ことへの意識改革や、国際支援参加への促しなどが十分に行われたと思われます。

7. FT 品生産国および TFT 寄付食数合計

購入したFT品の生産国	
	フィリピン:ドライマンゴー
	メキシコ:ドライマンゴー
	ケニア:ハーブティー、ジャム
	ドミニカ共和国:ココア
	スリランカ:カレーペースト
	インド:ダーズリンティー、アッサムティー
	ペルー:コーヒー
	ブラジル:チョコレート
	ポーランド:チョコレート
計9か国	

TFT寄付食数合計	
華月祭:	97食
バン格拉デシュ・カフェ:	14食
クリスマスイベント:	49食
計160食(3200円)を アフリカに届けます。	
<small>イベントの収益から寄付させていただきます。</small>	



One Bite of Fair Trade with YPU TFT Project のロゴ。

「常に心の中に FT、TFT を」という思いからロゴにハートを使用。

団体名

「One Bite=ひとくち」には、「自分にできるほんのちょっと、ひと口分くらいの活動をしてみよう」という思いが込められている。

・成果及び感想

「自分たちが動かなければ、誰もついて来てはくれない」そう強く感じた半年間でした。セミナーやイベントなどを開催するにあたって、SNS のみで宣伝するのではなく、口頭で伝えたり、チラシを配ったりする努力があってこそ、人は興味を持ってくれるのだということがわかりました。同時に、熱い思いをもって行動を起こせば、思いもよらないことにまで発展していくのだと実感しました。たとえば、TFT イベントで私たちのコラボレーション企画を報告したら、横浜の大学で報告する機会を得たり、TFT 大学連合総会に試食品を提供したら、他大学のカフェメニューに選ばれたり、私たちの思いが広がっていくのを感じました。たとえ小さな活動でも、たくさんの方が集まれば大きな活動になるように、いち地方である山口から始まった動きが、やがて日本、世界を巻き込む動きになると信じ、これからも私たちにできることを行っていきたく思います。

・指導教員のコメント

TFT の活動は今年度で 4 年目を迎え、学生たちのユニークなアイデアと熱意によって年々活動が拡充し、メンバーも拡大しています。今年度は一部のメンバーを中心に、TFT では取り組まれてこなかったフェアトレードを取り入れた活動を行うために本プロジェクトを企画し、その活動を学内にとどまらず学外でも精力的に取り組み、大きな成果をあげることができました。本プロジェクトを 1 年限りに終わらせることなく、継続して活動に取り組み、定着させることを期待しています。

・収支報告

配分額		99,465 円
支出内訳	文房具代	5,805 円
	コピー代	20,752 円
	FT 商品代	17,880 円
	食品・雑貨代	17,554 円
	交通代	19,580 円
支出合計		81,571 円
残額		17,894 円